着任インタビュー

大阪国税局長

岩元（いわもと） 達弘（たつひろ） 氏

略歴

昭和44年生まれ　鹿児島県出身
平成３年４月　大蔵省入省
平成11年７月　大蔵省理財局資金第一課　課長補佐
平成13年１月　財務省理財局財政投融資総括課　課長補佐
平成13年７月　東京国税局総務部総務課長
平成14年７月　財務省主計局主計企画官補佐（調整係主査）
平成15年７月　財務省主計局主計官補佐（厚生労働係主査）
平成16年７月　財務省主計局主計官補佐（防衛係主査）
平成17年７月　富山県庁出向（生活環境部次長、生活環境文化部長（18.4付））
平成19年７月　財務省理財局財政投融資総括課企画調整室長
平成20年７月　財務省理財局総務課　課長補佐
平成21年７月　独立行政法人日本貿易振興機構コペンハーゲン事務所長
平成24年７月　財務省大臣官房企画官兼主計局厚生労働係
平成24年12月　内閣府大臣秘書官事務取扱
平成28年６月　財務省主計局主計官（農林水産係担当）
平成29年７月　防衛省大臣官房会計課長
令和元年７月　財務省大臣官房総合政策課長
令和２年８月　防衛省大臣官房審議官
令和４年６月　近畿財務局長
令和５年６月　日本政策金融公庫国民生活事業本部長
令和８年７月　現職

聞き手
公益財団法人納税協会連合会
常任副会長
新木敏克

（令和８年８月５日収録）

着任の抱負

新木　ご着任おめでとうございます。最初に、大阪国税局長にご着任されての抱負をお聞かせください。

岩元　私は、平成３年に旧大蔵省に入省し、これまで財務省主計局や理財局など、様々な仕事を経験してまいりました。

このうち、国税の職場は、平成13年に東京国税局の総務課長として勤務して以来、実に25年ぶりとなります。

大阪国税局は全国の国税局の中でも、東京国税局に次ぐ職員数を抱え、西日本のセンター局として、国税組織の中核を成す非常に伝統のある組織であります。

この度、伝統ある大阪国税局の局長として勤務する機会を得たことは大変光栄であり、その重責に身の引き締まる思いであります。

国税庁の使命である「納税者の自発的な

納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」ことを果たしていくため、不断の努力で「納税者サービスの充実」と「適正・公平な課税・徴収」に取り組んでいきたいと考えております。

まず、納税者サービスの充実については、「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」という将来像に向けて、e-Tax等の利便性の向上やキャッシュレス納付の利用促進、相談対応・情報発信の改善など、これまで以上に納税者目線に立って、様々な納税者サービスの向上に努めてまいります。

また、適正・公平な課税・徴収の実現への取組については、納税者の権利・利益の保護を図りつつ、適正に申告・納税を行っている多くの納税者が不公平感を抱くことのないよう、悪質な納税者に対しては、厳正な態度で臨むとともに、デジタル技術も活用し、課税・徴収事務の効率化・高度化を図ってまいります。

国税庁に課された使命を今後とも着実に果たしていくために、経済社会の変化に適切に対応しながら、絶えず進化し続けてまいりたいと考えています。

国民の皆様から負託を受け、信頼できる税務行政を行っていくためには、納税者の皆様との信頼関係を築くことが重要であると考えていますが、私どものみの力では到底成し得ないことから、納税協会の皆様のご理解とご協力を賜りたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新木　こちらこそ、よろしくお願いいたします。

関西の印象・関西経済への期待

新木　関西の文化や歴史等についてのご感想、そして関西経済への期待や提言をお聞かせください。

また、これまでのご経歴における関西との関わりについて、ございましたら、ご紹介ください。

岩元　関西は、古くから都が置かれるなど日本の中心として栄えてきた歴史を持つほか、日本を代表する文化・芸能が生まれるなど、歴史と文化が非常に豊かな地域であり、世界文化遺産をはじめとして、国宝・重要文化財を数多く有する文化財の宝庫です。

さらに、古くから日本酒の醸造が盛んであり、灘、伏見といった全国有数の酒どころがあるほか、山田錦をはじめとする酒造米の一大生産地もあります。

一方で、ＪＲ大阪駅北側には数多くの高層ビルが立ち並び、現在も大型の複合再開発が相次いで行われており、深い歴史と近代的な街並みが融合した、大変魅力的な地域であると感じております。

関西での勤務は、令和５年６月まで１年間、近畿財務局長をしておりましたので、３年ぶりでありますが、このような歴史と文化が融合する魅力ある関西で、再び勤務できる機会をいただきましたことを、大変喜ばしく感じております。

また、関西には、電気機器、製薬、保険など我が国をリードする企業が数多くあるほか、地域の特色を生かした産業も数多く、活気にあふれた地域と感じております。

このような中、昨年開催された「大阪・関西万博」では、累計で約2,900万人が来場し、国際的なイベントとして大きな注目を集め、関西に新たな活力と成長の機会をもたらしました。

また、「うめきた２期地区」では、昨年の「グラングリーン大阪」南館の開業に続き、本年11月には「うめきたの森」の開園が予定されており、ＪＲ大阪駅周辺では新たな都市機能の整備が進んでおります。

今後は、2027年度の「全体まちびらき」に向けて、更なる基盤整備の実施が予定されており、関西経済の更なる活性化に期待したいと思います。

税務行政の当面の課題と運営方針

新木　次に、税務行政の当面の課題と運営方針をお聞かせください。

岩元　税務行政を取り巻く環境は、経済社会のグローバル化・デジタル化により大きく構造転換しております。

税務行政においても、こうした外部環境の変化に合わせて、納税環境の整備を進めるとともに、果断に業務改革を推進するなど、国税組織自身が変化していくことが不可欠であると考えております。

こうした変化に的確に対応するための取組の一つとして、「税務行政のデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）」を、①納税者の利便性の向上、②課税・徴収事務の効率化・高度化、③事業者のデジタル化促進、の３つの柱に基づいて進めています。

１本目の柱として掲げている「納税者の利便性の向上」については、「あらゆる税務手続が税務署に行かずにできる社会」という将来像の実現に向けて、マイナポータル連携を活用した「書かない確定申告」の拡充や、e-Taxの利便性の向上・キャッシュレス納付の利用拡大など納税者目線に立った取組を進めてまいります。

２本目の柱として掲げている「課税・徴収事務の効率化・高度化」については、ＡＩを活用したデータ分析等を調査事務や徴収事務に取り入れて、効果的な税務調査や滞納整理を推進していくとともに、地方公共団体や金融機関等への照会のデジタル化を進めるなど、データを活用して事務を効率化・高度化してまいります。

そして、効率化により生まれた事務量を確実に調査・徴収事務に振り向けることにより、適正・公平な課税・徴収の実現に努めてまいります。

特に、消費税の不正還付事案、富裕層による海外への資産隠しや国際的な租税回避行為については、適正な申告を行う納税者の信頼を揺るがす大きな問題として、厳正かつ重点的に取り組んでまいります。

３本目の柱として掲げている「事業者のデジタル化促進」については、事業者が日頃行う会計・経理等の様々な業務が一貫してデジタル化されることで、単純誤りの防止による正確性の向上や業務の効率化による生産性の向上につながることが期待されます。

そのため、国税当局としても、事業者のデジタル化促進に向けて貢献していきたいと考えております。

このほか、国税庁の果たすべき重要な任務の一つである「酒類業の健全な発達」を図るため、酒類業の事業所管官庁として、日本産酒類の認知度向上や海外市場の開拓支援を推進しております。

国内市場の縮小が続く一方、日本産酒類への海外の関心は高まっており、その魅力や品質は世界で高く評価され、令和７年の輸出額は過去最高を記録しました。

こうした状況を踏まえ、管内の酒類事業者の皆様との対話を重ねながら、日本産酒類のブランド価値向上に向けた取組を後押しするとともに、関係機関と連携しながら、酒類業の振興に向けた取組を着実に進めてまいりたいと考えております。

このような様々な取組を推進していくことにより、税務行政の基本である、納税者サービスの充実と適正・公平な課税・徴収の実現に努めてまいりたいと思っております。

納税協会への期待

新木　納税協会は、税に関する公益法人として、キャッシュレス納付の推進や税に関する説明会の開催などに積極的に取り組んでいます。また、次代を担う青年部会を中心として、租税教室の開催や税のＰＲ活動、ボランティアによる地域貢献にも力を注いでいます。

納税協会へのご注文、ご期待などがありましたら、お聞かせください。

岩元　納税協会は、個人・法人を問わず、加入することができる全国に例のない組織として、税知識の普及、適正な申告納税の

推進及び納税道義の高揚を図るという目的のため日々ご尽力いただいており、私どもにとりましても大変心強い存在となっております。

また、納税協会の部会の中でも、次代を担う青年部会は、積極的に事業活動を行い、組織の活性化に取り組んでいただいております。

特に、部会共通の活動テーマとして力を入れて取り組んでおられる租税教育活動においては、昨年度は1,588名（対前年比104.3％）もの方に租税教室の講師として参画いただきました。

また、「ひこにゃん」や「ずんだもん」といった人気キャラクターを用いた租税教育用教材を作成していただくなど、租税教育の充実に大きく貢献いただいております。

本年10月には、17回目となる「納税協会青年の集い」が豊岡市で開催されると聞いております。各協会青年部会の日頃の取組をお伺いできる貴重な機会と認識しておりますので、参加させていただくことを楽しみにしております。

このほか、デジタル化促進宣言式や研修会等の開催を通じて、「税務行政のデジタル・トランスフォーメーション－税務行政の将来像2023－」の３本目の柱として掲げている「事業者のデジタル化促進」に関連する施策にも、積極的に取り組んでいただいております。

私どもといたしましても、納税者のニーズに応じた事業活動の実施に向けて、共に取り組んでまいりますので、納税協会の皆様とは、税務行政の良き理解者、良きパートナーとして、これまで以上により良い連携・協調関係を築いていきたいと考えております。

そして、連合会におかれましては、本年６月に創立80周年を迎えられたこと、心からお慶びを申し上げます。

昭和21年の発足以来、長い歳月にわたり、各納税協会と手を携え、その中軸として納税協会全体の事業活動の円滑な遂行が図られるよう活動してこられました。

今後も魅力ある事業を活発に展開され、地域社会での納税協会の存在意義をさらに高めるとともに、より一層、企業経営及び地域社会の発展に貢献されますことを期待しております。

引き続きご理解とお力添えをよろしくお願いいたします。

仕事をする上で大切にされていること

新木　仕事におけるモットー、座右の銘などについてお聞かせください。

岩元　仕事をしていく上で、大事なことは、「ワン・チーム」だと思っています。

組織で業務を進めるためには、職員が協力しながら一体となって仕事をしていくこ

とが重要です。

明るく風通しの良い職場環境の下、職員一人一人が互いを尊重し、協力し合いながら、一体となって職務に取り組むことで、職員は最大限に能力が発揮でき、組織全体としても一層の活力を生み出すことができると考えています。

そのためには、風通しの良い職場作りや、お互いにコミュニケーションを取って、自由闊達に意見を言い、よく議論していくことが大事だと思います。

新木　それでは、最後に、余暇の過ごし方、趣味などについてお聞かせください。

岩元　健康のためにも、普段からウォーキングをするようにしています。

また、以前、大阪にいた際にも、関西の各地に出掛けて、お寺やお城など歩いて見て回りました。

今回も、引き続き、管内のあちこちに行って、地域の歴史や文化を学び、さらに見聞を深めたいと考えています。

新木　お体にお気を付けていただきまして、ご活躍されますことを、納税協会の会員の皆様とともに祈っております。

本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。